

# 三市収益事業 江戸川競艇を視察

あきる野市は、三市収益事業として江戸川競艇場の施工者になっています。1月14日、あきる野市議会議員による視察がおこなわれました。日本共産党市議団からは、山根とみえ議員・たばたあずみ議員が参加しました。

## 三市収益事業って？

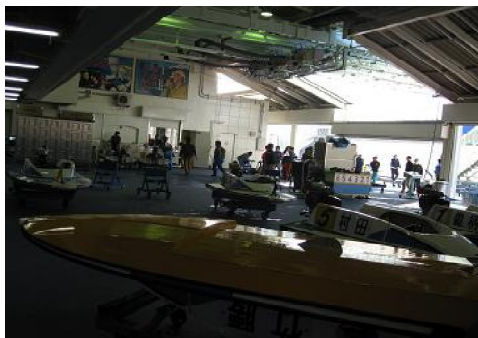
江戸川競艇は東京都により昭和30年に作られました。その後、48年に東京都の競艇事業が廃止となり、平成14年に六市競艇事業組合（八王子・町田・調布・武蔵野・小金井・昭島）と、三市競艇事業組合（あきる野・稲城・多摩）が合同施行することになりました。

売り上げの一部が収益配分金として市の財政に入ります。来場者も多く好調だった平成3年頃には、売り上げは1200億円を超え、配分金も15億円にも上りましたが、その後売り上げはどんどん落ち込んで、いまや配分金は1自治体につき2000万円にまで減ってしまっています。

売り上げの低迷に伴って、早期退職者を募る、舟券自動発売機を導入するなどし、平成14年度に386人いた従業員を、21年度までに3分の1の124人に減らしました。賃金の削減も労働組合と協議中とのことで、雇用確保の場としての意義も危うくなっています。

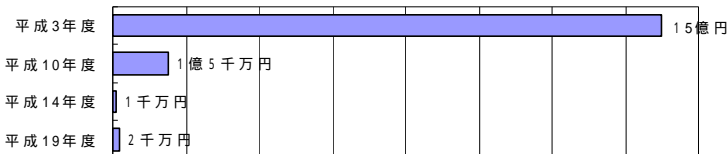


疾走するモーターボート。選手は小柄な方が有利で、女性も増えているとか。

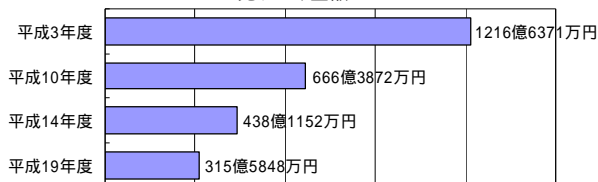


ピット内では選手自ら整備をします。

配分金



売り上げ金額



## 視察の感想 たばたあずみ

今回はじめて競艇場に足を運びました。レースに熱くなった人たちにぎわっているのだらうと思っていましたが、想像していたよりもずっと人が少ないことに驚きました。この不況下ではギャンブルどころではないということでしょう。

モーター競技ということもあり、時には命にかかわる事故も起こるそうですが（視察中にも転覆がありましたが、ケガには至らずひと安心）選手会で補償されているとのことでした。

見ているだけなら楽しいモータースポーツですが、一度お金を賭けてしまうと勝ち負けだけが目的のギャンブルです。はずれても次は当たるのでは、次で取り戻せるのではと、みるみるはまっていってしまいます。

自治体の税収にギャンブルを利用するのが、はたして正しいことなのかどうか、考える時がきていると思いました。

ハズレ券を食べるヤギロボット。動力は太陽電池。ギャンブル場で、唯一のどかな存在。



## 議会日程

3月議会は2月23日から始まります。

- 2月 15日(月) 陳情・請願締め切り
- 16日(火) 秋川斎場組合議会
- 23日(火) 本会議初日(議案審議)
- 26日(金) 阿伎留病院組合議会
- 3月 3日(水) 総務委員会
- 4日(木) 環境建設委員会
- 5日(金) 福祉文教委員会 西秋川衛生組合議会
- 9日(火) 本会議2日目(一般質問)
- 10日(水) 本会議3日目(一般質問)
- 11日(木) 本会議4日目(一般質問)
- 16日(火) 予算特別委員会
- 17日(水) 予算特別委員会
- 26日(金) 本会議最終日(追加議案審議)

日本共産党 [jcp-akiruno.com/](http://jcp-akiruno.com/)

あきる野市議団ニュース

156号 2010・2・7 Tel・Fax 558-1134

日本共産党あきる野市議団は以上の見解を発表しました。市民のみなさんの御意見をお聞かせください。

## — 法律相談 —

2月25日(木) 午後1時半～3時  
予約が必要です。市議団までご連絡ください。